



新春を迎えて

二松学舎大学 父母会報

平成5年5月10日創刊
平成20年1月20日発行
(第59号)
二松学舎大学父母会
(本 部)東京千代田区三番町6番地16
(事務局)千葉県柏市大井2590
〒277-8585 TEL.04(7191)8756
二松学舎大学柏教学課
題字は
故 観山貞廣常吉先生書

父母会長 清水 忠



新年明けましてお目出度う御座居ます。全国の会員の皆様、佳き新年を迎えられたことお慶び申し上げます。

昨年は、年頭から愚言を陳べ、今読み返して汗顔の至りです。「明けまして云々」の語句は、考えてみればこの世は苦勞が多いもので、従って今年こそは苦勞が少しでも減ればいいとの願いが込められている習慣語なのでしょう。

さて、この世の苦しみのもととは人によってもたらされる「人災」である、それに立ち向かう方法はあるか。二松学舎の人材育成力に、それは求められると力み、次回述べると書きました。

昔から、人々は漢学を「自己の人格を育成する」学問として学んできました。二松学舎が、維新以降も「漢



学」を「読み書きソロバン」ではなく、「舶来の新知識」でもなく教えてきたわけは、そこにあつたと思えます。人の役に立つ、世の中の役に立つ人材の育成です。

二松学舎が生まれて百三十年たちます。その間、とても大勢の人達が入学し、漢学を学び、卒業していききました。そして世の為、人の為に役立ってきました。

今日は人口も徳を感え、「人格の陶冶」を目指した人達の割合が少なくなっています。早目に育てませんか。昔は藩校でまず少年時代から論語の素読を教えました。その方法を現代に広めたら如何でしょう。まず、県庁所在地規模の都市で、全国に「論語の素読教室」を開設するのです。小学校の空き教室等を使い、講師は松苓会員(二松学舎卒業生)、奨励のため月謝を少々いただく。サッカー、スクール、野球教室等と違わないと思えますが皆さんいかが。将来の経済生活の役には立ちませんが、

こういう夢を、もう五年もみています。楽しい

初夢として、さて何はともあれ、今年も父母会を力強く推進していきましよう。



父母会の皆様、明けましておめでとうございます。
 昨年、皆様のお力添えにより、本学創立一三〇周年記念式典・祝賀会、記念行事を開催し盛會裡に終えることができました。厚く御礼申し上げます。各界より多数のご出席をいただき、お祝いと励ましのことばを賜り、私たちに与りまして、大きな声援となりました。また、多くの方々に二松学舎をよりよく認識していただく良い機会でもあったと思います。

さて、今年も創立一三一年目、干支も「戊子」の歳、十二支の第一の「子」です。本学にとって新たな一三〇年



新しい年を迎えて

学校法人 二松学舎
 理事長 大山 徳 高

まずその第一歩として、昨年のこの会報で佐藤前理事長のご挨拶でもご報告がありましたとおり、大学の九段集約のため、九段上の交差点の傍の土地(千代田区九段南三丁目一番地)を購入しましたので、校舎建設に取り掛かります。土地面積は一〇〇坪強、建物延べ床面積は二五三八㎡、十階建、主として教室仕様となります。昨年十二月から現存のビル解体に着手しており、五月中には

終了し、六月から校舎建築に着手することになっていきます。平成二十一年度竣工の予定です。
 この校舎の建設と併せ、現九段校舎の改修を計画しており、大学では、九段地区での授業について検討



ました。これまでも二松学舎の水統的な発展を図るため、資産運用収入、事業収入等の増加策を講じ、学納金収入のみ依存する収入構造を改め、財政的基盤の強化に努めてまいりました。その一環として、①大学の教育研究環境整備、②学生の奨学金の基金を柱とする募金活動を行うことになりました。(両附属高校関係の募金活動も同じ趣旨で始めました。)

平成二十年の年頭にあたり、父母会の皆様のご健康とご多幸、学生諸君の前途に幸多からんことを祈念いたします。



父母会員の皆さま、新年おめでとうございます。謹んで新年の賀を申し上げます。月並みながら、この年が会員諸氏、学生諸君、本学教職員にとりまして、また二松学舎大学にとりましても良い年であることを祈る次第です。

昨年は二松学舎創立一三〇周年をめでたく祝えました。また記念式典、諸種の記念行事も無事果たし終え、二松学舎の存在を少なからず世に知らしめ、将来へ向けての地歩を確立するに役立ったものと思



風格ある大学を目指して 年頭にあたり

学 長 今 西 幹 一

も前進した年でありました。昨年一年を象徴する一文字漢字が「偽」であったのは、時代世相を反映するものであったとしても、残念なことです。特に食産業の方で実害こそないものの、偽装、虚飾による永年培って来た信用が一挙に失墜、企業体そのものが瓦解する危機を生み出した。まさに「胡麻剥乱」の事態です。私は大阪で生まれ、本籍を三重に有する人間ですので、船場吉長、赤福本舗の事態には関心を持ちました。

庶民から多少縁遠い吉長は別として、赤福は製品への良心的心遣いをもつ一級の老舗と信じていただけに衝撃的でした。利益第一の拡張主義が過ぎたの、商人道義を見失った結果と思えます。
 本学もまた、マンモス大学の総合百貨店ののに対して、国漢の老舗専門店を任じて来ました。歴代の学長、理事長の自校紹介として書かれたものにもしばしば散見するところ

「偽」なる語を聞くたびに、私には一種の同調しがたい思いが兆しております。「偽」には、気品、品位の語意を含みますが、他方で品位を走らせる源氏の「雨夜の品定め」の良からぬ場面をすら思い浮かべます。確かに敗戦後は「国家の品格」を見失って来ています。外へ対しての卑屈、自虐、盲従、妄信なども、その表面化された現われでしょう。幕末・明治の開国期、来朝の外国人

たちをして驚嘆せしめた、すべての人物がそうではないにしても「気骨」「気概」は、失われてしまっています。高い教養、節度あるまっとうな言行、沈着不動の信念、そうしたものの自らにじみ出る風貌、態度所作、格調高くすべてを受け入れる度量の広さ、それらが総合的ににじみ出る人物、それこそ「風格」のある人物と言えましょう。身分階層の上、身体の大小、年齢の高下を超えて、「風格」はあるものです。
 大学もまた、学生数や財政の規模では計り知れぬ、「偽格」を超えた「風格」ある大学があつて然るべきと考えます。それには、しっかりとした建学の理念、歴史の風雪に耐えた伝統性、学殖豊かな教員、向学心溢れる学生、学生・父母の方を加えて、と教職員の間相互信頼等々、その要件は考えられます。別なところで「薫染」ということに触れましたが、自ら人格陶冶、人間形成に感化教化できる学園が理想です。二松学舎は、現在直ちにそうではなくとも、その可能性のある大学だと思っております。
 風格のある大学、それは夢見るものでなく、実現に向けて尽力するところに生まれ出るものです。

平成十九年度

地区別父母懇談会

アンケート結果

平成十九年七月七日(土)・十四日(土)に九段校舎・柏校舎で開催された父母懇談会でのアンケート集約結果の一部が前号「編集後記」にも記載されておりますが、その詳細をここに掲載いたします。

■「学食体験」について

【九段校舎】

- ◇もつと多くの種類があったら良いと思います。
- ◇十三階のレストランでもお茶したかったです。
- ◇コンビニのお弁当を器に移し変えた様な、味気が無かった。
- ◇酔いの方が無表情であった。ハンバーグ、パスタ、オムライス等メニューがもう少しあつたら良いです。

【柏校舎】

- ◇カツカレーを食べましたが、カツはまずい。
- ◇メニュー・種類等については今後とも調査・改善を続けてまいります。

■「講演会」について

【九段校舎】

※次回講演を行う場合、どのような内容を希望されますか？

具体性のある内容を盛り込んだ講演会となるよう検討してまいります。

■「懇談会」について

※懇談会全体について、お気づきの点がありましたら、ご記入ください。

【九段校舎】

- ◇いかに学生のことを考えて取り組んで下さっているか、よく分かりました。安心して学校にお任せできると思いました。
- ◇来て良かったです。ありがとうございます。
- ◇昨年、一昨年時の中洲記念講堂より、五〇七教室の方が明るく、机もあって良かったです。
- ◇とても有意義な会でした。
- ◇挨拶は短めをお願いします。その分キャリアセンターの話を多くしてください。
- ◇学部の内容がよく分かった。
- ◇(子供が)二年生ですが、早めに聞いておいてよかったです。
- ◇娘のゼミの先生、渡辺先生のお話、大変感動いたしました。今後共宜しくご指導くださいます様、お願い申し上げます。
- ◇大学の雰囲気はよくわかりました。
- ◇三年生の保護者です。初めて参加させていただきましたが、もつと早く参加すべきだったと反省しております。

- ◇就職についての現状と対策、親子のかかり合い方、前もつての話ではなく、中身の話が聞きたかった。
- ◇親と子供の二人三脚の話は大変分かりやすかったです。次回もう一度聞きたい内容です。
- ◇今後も就職関係の講演が良いと思います。
- ◇企業の就職担当者等、特に大手と中小と各々採用側から見た学生への評価、二松学生はどうかなど、ごく一般的な内容である、具体的な情報が知りたい。
- ◇本大学生が就職する可能性の高い(また人気の高い)業界の情報(就職先)など、より具体的な内容の内容をの講演の講演。
- ◇プロの講師の話ではなく、企業の採用担当者の話(企業が求める人材など)、子供にも今日の講演をぜひ聞かせたい。
- ◇OBを招いたキャリア講演会、座談会。
- ◇もう少し具体的、現実的な話、具体的な情報、就職面接、エントリーシートなどの記入などのハウツー、会社説明会などの(昨年度版でもいいので)、スケジュール表。
- ◇同じように就職のこと。
- ◇就活のタイミングをもつ少し詳しく。
- ◇教員採用試験採用状況等について。
- ◇今回の講演内容を深くして継続し

【柏校舎】

- ◇大変参考になりました。ありがとうございます。
- ◇今西学長、野村文学部長、鈴木国際政経学部長の説明については、心に伝わる言葉でした。
- ◇キャリア教育のおかげで就職への意識に目覚めて就活充実しています。二社内定致しました。ありがとうございます。
- ◇履修表に関する情報を希望します。個人別ならPDFですが、率でも。
- ◇教育公務員情報ももう少し詳しく教えてください。

【柏校舎】

- ◇大学の状況が分かりやすく良い。学長・学部長に直接話が聞けるのが良い。
- ◇就職説明会の時、本学は在学中に人物が充実するとのお話がありました。おおいにありがたいことだと思います。
- ◇親の方がわからないところで聞いています。時間がなかつた様ですが、もう少し詳しく聞きたかったです。
- ◇字内を自由に見学出来るのはよいです。
- ◇図書館で水木コーナラーの見学を勧められたが、内容は非常にすばらしかった。水木さんの「人」が浮かんできてくる感じがした。
- ◇地理的問題で子供にアパート一人住まいをさせており、状況を殆どつかめていないのが現状でした。

- ◇親と子供の二人三脚は無理。サポート・声かけのタイミングのポイントはどこか？子供の対話はどこまで必要か？
- ◇もつと早くこのようなお話を聞いておけば良かったと思いました。
- ◇資料が分かりやすく、勉強になった。参考になりました。
- ◇講演者への質問時間をとってほしい。
- ◇具体的な二松の学生を希望している社名。
- ◇二松学舎の学生を採用したい企業はどのような企業でしょうか？

【柏校舎】

- ◇最近の就職状況が、わかりやすくまとめてあり良かったと思います。
- ◇今回のお話は、私たちは分かっていいる内容なので、子供供たちが、学校でどんなことを学んでいるのかとか、文学でも経済学でも良いから教えてもらえる話が良い。
- ◇やはり、就職に関する話。
- ◇就職活動に成功した先輩方の座談会、何が成功したポイントだったのかを話し合ってもらおう。
- ◇同様な内容。
- ◇次回も就職関連が良いと思います。今後は特に、二松学舎大学の状況も内容に入れて講演されると良いと思います。
- ◇マニュアル通りで一般論、熱意がない。特別聞くことのほどでない。

- ◇人間はどうして働くのかの意義をもつと語って欲しい。お金より人間として成長していくこと、世の中の役に立ち世界を平和にすることです。
- ◇最近の就職情報について。
- ◇自分を見つめ、自分で人生を生きていくことの大切さ。
- ◇質問も出ましたが、企業が就職後研修制度を採用している企業を調査頂き、就職エントリー時期に学生に説明できる体制まで各企業の研修制度等も調査願ひ、説明頂けると幸いです。学生も就職時は無知と思われ、研修課題により自分の得意分野を見出し、会社に貢献出来るものと信じております。是非、この点企業に一步踏み込んで調査頂き、エントリーまでに学生に説明願ひたいものです。
- ◇各学部OBの方で、活躍されている方々の実体験を交えた講演。
- ◇年に数回でも数多く講演を行って欲しい。
- ◇企業側の教育計画、体験学習(文化祭・体育祭などに消防・警察官を呼んで実技訓練など)、企業を三年以内で辞めた人の統計。
- ◇現在一年生ですが、三年になった時にも同じような講演(父母会向け)があるとよい。
- ◇質問の時間が短いと思った。
- ◇【回答】(大学より)卒業生の実体験等も加味し、より

これまでの接し方が判らず、今回のはじめての懇談会に参加させて頂き、大変参考になり、方向性が判った様な気が致します。

【回答】(大学より)

- ◇非常にわかりやすく説明されていてありがとうございました。
- ◇具体的な話が興味深い。総論的な話はその通りだと思っただけ、進級が問題になった話が多かつたが、とであり、残念に感じた。
- ◇履修単位について伺えて参考になりました。ありがとうございます。
- ◇父母に情報のはいりにくい部分を教えて欲しい。
- ◇履修登録と卒業要件について具体的にわかりやすく話をしていたので良かったです。
- ◇有意義な懇談、大変に有難うございました。
- ◇履修のことが、親もよくわかっていなかったため、参加でき良かった。個別相談は、事前ハガキで希望を出しましたが、二時間待ちでした。事前希望をとるのであれば、時間の取り方への配慮が欲しいと感じました。
- ◇今日は、お世話になりました。ありがとうございました。色々な話を聞くことができて良かったです。これからの親子のかかりあい話し合いの参考にしたいと思ひます。
- ◇懇談会の内容とは関係ありませんが、エゴを考えるとクーラーは過剰かと思ひました。



●皆様、ご協力ありがとうございました。



創縁祭

かないというのが真実です。僕が一年生の時、この学園祭は開催するのがやっとという、極めてこぢんまりとしたものでした。他大学に見られるような盛り上がりはなく、ひたすら身内だけのもの、というものであったように思います。だから僕は、この創縁祭を、もっと誇れるものにするべく、三年間を執行委員に身を捧げる決心をしました。

そして三年目の今年、父母会の皆様を始め、教学課、入試課、広報課の方々、参加団体のみなさん、そして何より実行委員会のみなさんのお陰でこんなに素晴らしい学園祭を「創」ることが出来ました。今まで関わってくれた全ての人に感謝！本当に、ありがとうございました！



祭



創縁祭を終えて

学園祭実行委員長 高橋 遼平

僕が二松学舎大学の創縁祭の運営に関わることになって、早いもので三年が経ってしまいました。

◎本年度のテーマは「百三十年、百三十色」という、二松学舎の歴史あるカラーを前面に出したいという気持ちで表れたものでしたが、僕にとつての二松学舎は、この三年でし



交換留学生の声

平成十九年度交換留学生として中国の孫偉珍さんとオーストラリアのジョイ・ファンさんに日本での大学生活について書いてもらいました。

「楽しい読書生活」

北京大学 孫 偉珍



今年の九月十八日に来日、二松学舎大学の柏寮に一時入寮し、十月五日、飯田橋駅近くの後楽寮に引っ越した。前期は柏、後期は九段という二松学舎の学生の皆さんと同じだ。柏キャンパスにいる時間は短かったが、二松学舎の初イメーシとして、立派な図書館があることは、印象的だった。柏寮から北のほうへ十分歩くと、柏市立図書館だ。本は勿論のこと、雑誌や新聞などが多くそろっていて、周りの人たちが読書をする中、自分がほしい情報を得るのは、実に楽しかった。

二日連続で通った挙句、「一生かかっても全部は読めない」というのが結論だった。九段校舎から殆ど同じ距離で、南側に向かうと、国会図書館。周りの景色は言うまでもないが、読書生活にとっては、九段校舎は完璧なところだと思ふ。

佐藤一樹先生の「新東京繁昌記」の漢文読解の授業を受けている。授業で出た本は翌日、地下の図書館ですぐ読めるし、貸し出しもできる。九段図書館は、漢籍などの所蔵がその特徴だ。中に「鄭堂読書記」(商務印書館一九五〇年代印刷)のよう

「二松学舎大学で得たもの」

シドニー工科大学 ジョイ・ファン



私は日本の部活に驚かされました。それはなぜかというところから、私の想像したことと全然違っていたからです。皆の熱心さ、先輩方の厳しさ、かかる時間や精神力、それと家族と一緒にいるみたいという気持ち、全ては交換留学生である私にとって印象的でした。

部活は私の想像したことと全然違っていたからです。皆の熱心さ、先輩方の厳しさ、かかる時間や精神力、それと家族と一緒にいるみたいという気持ち、全ては交換留学生である私にとって印象的でした。

部活に入ったから、私は留学生としても、一人の人間としても成長しました。それに、日本の特徴、日本人の考え方や気持ちも、経験できるようになりまし。最後に、ずっと言わなかったのですが、いい思い出も作れました。それができるように私を支援して下さい。さつた皆様に、とにかくありがとうございますと申し上げたいと思います。

静かな読書コーナーで三時間くらい本を読んでから、六階の演習室へ向かう。本を借りるとき、受付の方や周りの学生さんの優しさに、自分の疲れもちょっと癒される。大学は、知的創造の場であるとともに、その蓄積の場でもある。もし今、学部生だったら、どれだけ素晴らしいだろうと私はよく考える。ここで一年間生活して、本を読めることは本当に幸せなことだ。

静かな読書コーナーで三時間くらい本を読んでから、六階の演習室へ向かう。本を借りるとき、受付の方や周りの学生さんの優しさに、自分の疲れもちょっと癒される。大学は、知的創造の場であるとともに、その蓄積の場でもある。もし今、学部生だったら、どれだけ素晴らしいだろうと私はよく考える。ここで一年間生活して、本を読めることは本当に幸せなことだ。

部活では色々得られるのに、なんで他の国にはないのでしょうか。それには色々な答えがあると思います。一番重要な答えは、日本人は部活に気合を入れてやってみようという事だと思ふ。他の国は、週に何十時間を使っても良いという考え方が少ないので、部活システムがあまり進まないのでは。日本社会の「頑張り」と、「サービスマン」のような特徴、それをやる方々の気持ちも、部活を通じてわかりました。日本のサラリーマンは、たとえ忙しくても、体調が悪くても、偉い先輩方と付き合わねばならない。日本の店員さんは、知らない人に、「お客様」と言わなければならない。先輩や、OBなど重要な地位の人に對して、ずっと尊敬して接しなければならぬ、という気持ちがわかるようになりまし。そして、それに慣れてきたら一生懸命働かねば落ち着かないという気持ちもわかりました。

部活に入ったから、私は留学生としても、一人の人間としても成長しました。それに、日本の特徴、日本人の考え方や気持ちも、経験できるようになりまし。最後に、ずっと言わなかったのですが、いい思い出も作れました。それができるように私を支援して下さい。さつた皆様に、とにかくありがとうございますと申し上げたいと思います。

キャリアセンターだより

三年生に対する企業の採用活動は、就職情報会社からの偏りを受けて、昨年の九月にはスタートいたしました。三年生の就職戦線は就職環境の好転から、当初は学生有利と考えられていました。しかし、米国のサブプライムローンの破綻や原油価格の高騰を受け、決って業績が不振な状況です。そこで注意すべきことは、(1)筆記試験対策(2)一般常識問題・SPIを十分に行う。(2)エントリーシートや面接の元になる「自己分析」を行いノートなどに記入しておくことです。特に本学の学生は数字を苦手としています。筆記試験には必ず出題されます。筆記試験をパスしなければ次の面接にすら進めないのです。

キャリアセンターでは、三年生の就職支援として、昨年の十二月二十日に学内合同企業説明会を開催いたしました。内容は、本学の学生を毎年採用する企業のうち優良企業七十二社に参加いただきブースを設けて学生が説明を受ける形式です。この七十二社は、本学学

生への採用に積極的な企業です。この七十二社は、是非チャレンジさせて下さい。七十二社の一覧は学生に配布済みです。さて、教員を目標としている三年生・二年生に対し、十一月二十二日に学内模試を実施いたしました。結果は悔しいものでした。このままでは、教員採用試験の一次筆記試験の合格は不可能です。相当の努力が必要です。キャリアセンターでは、二年生には二月十二日、三月十九日、三月二十三日、三月二十五日、三月二十五日、それぞれ教員採用試験合格講座を開講いたしますので、受講を勧めたいです。なお、一年生に對しても二月十二日、二月十九日まで「スタート講座」を開講いたします。教員を目指す一年生には必ず受講させて下さい。

学生相談室だより59

カウンセラー 改田 明子

学生相談室では、だれでも参加できる催しを行っています。今年度は、晩秋の一日の午後、柏キャンパスのフリースペースを使ってアロマテラピーの会を行いました。アロマテラピーは、よくわからなくて近寄りたがたい印象を持つ方もいるかもしれませんが、今回は難しいお話を抜きにして、素材に香りを楽しむ場にしていただきました。

《渡辺ゼミナール》

私達渡辺ゼミは、マクロ経済について各々が調査し、レジュメを仕上げ発表するスタイルで学習している。それぞれのレジュメに、先生からの補助的な解説も加えられ、更なる習熟度の向上を実現している。

このレジュメ発表に加え、英文で書かれた経済に関する書物を翻訳する学習も行っている。翻訳作業は大変面倒ではあるが、この英文の中で、今まで知る事の無かった知識を得ることが出来る。又、マクロ経済につ

《森野ゼミナール》

私達の所属する「森野ゼミナール」は、日本語について学んでいます。日本語の文法、敬語、文字等にみられる諸問題を、各自がテーマを決めて考察していきま

す。例えば、「ら抜きことばは誤用か」や「人物の呼称に用いる『ちゃん』について」などのテーマを各自が定め、研究します。ゼミ生全員が積極的に参加しているのが、発表者への質疑も盛んです。

森野先生は日本語について幅広い知識を持っていて、私達渡辺ゼミは、マクロ経済について各々が調査し、レジュメを仕上げ発表するスタイルで学習している。それぞれのレジュメに、先生からの補助的な解説も加えられ、更なる習熟度の向上を実現している。

ゼミ探訪

先生なので、私達が視野を広げて考えられるようにサポートしてくれま

す。また、人柄もとても優しく、ユートクな一面も持っている先生です。ゼミのメンバー同士の仲も良く、豊かな個性とあたたかい心を持って

いるメンバーです。先生が親身になって相談に乗ってくれるだけでなく、ゼミの仲間と一緒に考えてくれます。自分一人で疑問を抱いていても、なかなか解決することができません。しかし、仲間や先生と一緒に考えてくれたり、きっかけをくれたりすることで解決への一歩を進めることが

いての学習を深めるといった副次的効果があり、ゼミ活動には大いなるプラスになっていると信じている。

ゼミと言えば一般的に合宿だが、我が渡辺ゼミではその合宿を実施していない。周知からは寂しい等と言われるが、それは逆に普段のゼミ活動に集中できる事であると考えている。

合宿も遊びの為ではなく、本来は普段の学習を深めるという目的の下で実施されるものであり、我がゼミでも是非実施して頂きたいと願うこともある。

ゼミ探訪

できます。私達は時には良きライバルにもなりますが、お互いに励まし合いながらそれぞれの研究を進めています。さらに森野ゼミナールは、とてもアットホームな雰囲気です。ゼミナールなので、授業だけでなく、年に二回行う合宿も充実した時間を過ごすことができます。夏合宿は河口湖へ、春合宿は箱根へ行きました。遊ぶ時は思い切り遊び、やる時は真剣に取り組むことができるところが森野ゼミナールの一番の魅力だと思っています。

しかし、普段集中して学習に取り組みれば必ずとその必要性もなくなり、合宿費用等意外負担となるお金も掛からない為、一石二鳥である。

このゼミ活動のお陰で、ゼミ以外の講義でも、スムーズに理解する事ができ、ゼミで学んでいる事が発揮される瞬間を実感できる。

兎角マクロ経済は難易度が高く、道程は平坦なものではないが、先述の通りここで学習した事は必ず役立つ。渡辺ゼミに所属している事に感謝していると云っても過言ではないと主観を述べさせていただきます。



創立130周年記念式典 盛大に開催される



平成十九年十月十日(水)午前十時から、本学九段校舎中洲記念講堂において、二松学舎創立一三〇周年記念式典が、文部科学省、私学関係団体、父母会役員、大学関係者等の来賓を迎え盛大に行われた。式典は、水戸英則常任理事の開式の辞に始まり、国歌斉唱、大山徳高理事長、今西幹一学長の式辞に続き、池坊保子文部科学副大臣、原田嘉中日本私立大学協会副会長、島居泰彦日本私立学校振興・共済事業団理事長からそ

れぞれ祝辞があった。続いて、名誉役員・名誉学位称号授与、学術文化奨励賞表彰があり、校歌を斉唱の後、渡辺和則副学長の閉会の辞をもって滞りなく終了した。

記念式典終了後、同会場において、お茶の水女子大学藤原正彦教授による「祖国とは国語」と題する記念講演が行われた。講演会終了後は、会場を十三階と地下一階に移し、記念祝賀会が開催され、二松学舎の新たな門出を祝った。



2号館玄関の自動ドア



1号館玄関のスロープ

○バリアフリー化工事
バリアフリー化工事として、一号館・二号館・五号館において、次の工事が実施された。

- ①身障者用のトイレの設置
- ②自動ドア・スロープの設置・改修
- ③エレベーターの設置・改修

(一)号館東側エレベーター設置については、現在進行中) また、この工事に伴い、一号館内のトイレを全面的に改修した。



クラブ棟

○クラブ棟のリニューアル
クラブ棟の耐震補強工事と、内外装照明器具等の改修、空調設備の新設等が実施され、学生の課外活動の活性化とキャンパス内の環境改善が図られることとなった。なお、外部階段の設置については、春期休業中に工事を予定している。

※詳しくは、図書館ホームページをご覧ください。

大学の講義を受講してみませんか

二松学舎大学には、科目等履修生制度があり、大学の授業を広く一般の皆様が開講しています。科目等履修生制度とは、大学で開講している授業科目(一、少数科目)を学生と一緒に受講し単位も取得できる制度です。

本学学生のご父母の皆様は、生涯教育の一環として一人でも多く大学の授業を受けて直きたいとの趣旨から、登録料の免除、科目等履修料の減額措置を講じております。この機会に、是非お子さんと一緒に大学の授業を受けられるこ

- 公開科目
学部・大学院で開講している授業科目のうち、原則として演習科目を除く全ての授業科目を公開いたします。
- 募集要項
平成二十年度の募集要項についてのお問い合わせは、二月になりましたからお願ひします。
- 受講料
一科目 通年科目 三万円
半期科目 一万五千円
- 問い合わせ先
二松学舎大学教学課・柏教学課

卒業パーティーの開催

父母会主催の卒業パーティーが本年度も開催されます。本年も昨年同様、会場は「帝国ホテル」です。盛大なパーティーとなることを期待しております。父母会が発足して十四年、卒業パーティーも十二回目を迎えました。文学部・国際政治経済学部の卒業生の皆さんには、法人役員・教職員を加えて楽しいひとときをお過ごしいただきたいと思ひます。

卒業式が終了しましたら、卒業生の皆さんお誘いあわせの上、帝国ホテル「孔雀東の間」までお集まりください。

【日時】平成二十年三月二十五日(火)
午後二時～四時
【会場】帝国ホテル
「孔雀東の間」

学生顕彰報告

新木秀弥君

毎日書道展入賞

七月八日から開催された「第五十九回毎日書道展」で、文学部中国文学科四年の新木秀弥君が、漢字部B類で入賞しました。

望月真里さん

文学部中国文学科四年の望月真里さんが、文学部で文部科学大臣奨励賞を受賞しました。

多田直希君

書道展賞(篆刻部)

八月二十一日から開催された「第十二回全日本高校大学生書道展」で、文学部中国文学科二年の多田直希君が書道展賞(篆刻部)を受賞しました。



編集後記

全国の会員の皆様、新年明けましてお目出度う御座居ます。昨年、幸いなことに天災は少なかったけれども、商業上の「いつわり」が山程発覚しました。見つからなければ何をしても良いということやら、商業道徳の欠如は呆れ返る程でした。新しい人災の出現でしょうか。老舗が培ってきた商業道がすたれました。長い間利潤追求を第一としてきた当然の帰結ではないのかと残念です。社会と共に歩むとか儲けの一部を社会に還元するとかいう商人はいなくなつたのでしょうか。これはもう人災の見本のようなもので、信じて偽物を食わされていた国民は、文字通り一杯喰つたのでした。大学生になつた息子や娘達は、何を喰わされても人様をたます者にはなってもらいたくない、等と早目に悩んでいた昨年でした。

さて全国父母懇談会の内容について、今年も詳しく載せましたのでお読み下さい。

大学の「創縁祭」に又参加しました。今年はやつたりとした「談話室」を経営、一五〇名もの皆様の「休憩」でした。また、アルパム配布についての学生の意向を調査したところ、回答三七八人中欲しい三五六人、欲しくない二十二二人でした。以上。